

北海道サケネットワーク'08 年度総会，北海道サーモン協会'08 年度サケ会議  
合同会議 議事要録

2008 年 10 月 11 日  
音更町 ホテル大平原

**【北海道サケネットワーク'08 年度役員会】**

役員が集合が遅れたため，役員会は取止めとし，課題があれば総会で論議することにした。

**【北海道サケネットワーク'08 年度総会】**

**事務局長から**

木村：参加者にキャンセルが出たため，予定より少ない人数となったが，議事次第の時間にとらわれず，忌憚のない意見交換をしてほしい。

**代表挨拶**

浦野：今年の 3 月で北大を退官し，現在は名誉教授として雑務をこなしている身であるが，今年の目標であったホームページを立ち上げることができたことを報告する．今年の本総会を帯広で開催することになったため，8 月に現地視察を行い，トトロロード等のすばらしい施設を見学できた．本会の開催に際し，尽力して頂いた太田代表はじめ帯広の関係者に心から感謝する．今後，サケネットワークはメーリングリストの活用を図り，さらに活発な情報交換を推進する予定であることをお伝えし，挨拶に代える．是非，盛大な会にしてほしい。

**座長選出**

木村：本総会の開催に当たり太田会長から強い勧誘があったこと，現地視察を含め伊藤さんから多くの方々に協力を頂いたことについて，改めて感謝する．座長の選出にあたり，ご意見はあるか．

浦野：開催地の方に引き受けて頂くのが通例であるが，太田さんが参加できない状況のため，木村事務局長にお願いしてはどうか．

参加者：拍手で同意．

木村：座長というより司会者として進行しようと思う．まず，議事 1 の事業報告を行う．2007 年の総会で話し合ったとおり，今年は情報交換活動を活発にすることが目標である．そのため，資料に示したように，事務局便り，ニュースレター（1-4），会報 2 号を発行した．特に会報 2 号の発行は，浦野代表の涙ぐましい奉仕の精神で出すことができた．また，旭川の自然を守る会からは，多くの情報を寄せて頂いた．しかし，その他の会員からの情報

が少なく、残念であるとともに事務局の力不足を感じる。

次にその他の活動である。背景はニュースレター等で承知のことと思うが、北海道には魚のシンボルがないため、本ネットワークではサケを北海道のシンボルにする活動を展開することにした。現状を説明する。昨年の11月末に道庁の水産林務部を訪ね、事情を説明したが、現在のところ賛同してもらえない様子はない。増殖事業協会と定置協会は賛同してくれた。しかし、漁連は難色を示している。水揚げ額の1位はホタテなので、漁連が先頭に立ってサケをシンボルにする話は進められない、というのが理由。同12月に知事部局と話をしたが、「民間から希望があった場合は対応するが、道が主導してシンボルを決めるルートはない」との返事だった。今年に入り、洞爺湖サミットがあったことから環境生活部とも話をしたが、「業界が動くか署名でも集めれば対応できる」との話。現在、この話は振り出しに戻った状態である。全道的な活動展開も含めて、今後どうするか、本日の会議で論議していただきたい。

### 会計関連の報告と議題

**前鼻：**資料のとおり 2007 年度の収支決算書を説明。本会の会計年度はカレンダー一年度と一致させていること、2007 年度は初年度だったため、発足から 2007 年 12 月までの 14 ヶ月分として報告していること、会費収入は一部の団体から多くの納入があったこと、繰越金が 42376 円であること等を説明。

**木村：**次いで会計監査報告に移る。

**石黒：**資料のとおり説明

**木村：**本ネットワークは、会計年度と総会の時期が大きくずれている。監査を受けた段階で、2007 年度と 2008 年度の会計について打ち合わせているのが現状である。収支報告と会計監査にご意見、ご異議あるか。

**参加者：**異議なしの声。

**木村：**了承された。次に、議事 2 の 2008 年度収支見込に移る。

**前鼻：**資料のとおり説明。会費収入は未納あるいは複数年納入団体があるため 12000 となること、会報費の支出は浦野代表の努力で 0 円となっているが次年度から考慮する必要があること、予備費は本総会に向けた打ち合わせへの支出であること、総会は 10 月に開催されるので今後も収支は見込みとしての報告となること、等を説明。

**木村：**正式な決算は来年となるが、見込みとして承認していただけるか。

**参加者：**拍手。

**木村：**承認された。次に、議事 3 の 2009 年度事業、収支計画に移る。初めに事業目標について説明する。本ネットワークの主目的は会員間の情報交換であるため、第 1, 2 の目標としてホームページ・ML の普及と活用による情報交換の促進を挙げた。パソコンの扱いが苦手な人も居るだろうが、浦野代表の指導のもと普及を図りたい。また、パソコン通信が完全に普及するまでは、これまでどおりニュースレターとしても発信する。現在のところ、一般会員 17 団体のうち 4 団体はパソコン通信ができない状態なので、郵送で対応するが、行く行くはパソコンへ移行したい。さらに、情報交換を活発にするため、皆様から

の積極的な情報提供をお願いします。できれば、少なくとも1団体から1報告程度を目標にしたい。当人にとってはつまらないと感じる情報であっても、異分野の人には興味深い内容かも知れないので、情報提供を重ねてをお願いします。新聞記者にも、「サケは多くの市民に親しまれている魚であるにも関わらず、サケに関わる統一した市民団体がなかった。本ネットワークは様々な分野の人と団体を網羅している」ことを伝えたところである。

第3の目標として、会報第3号の発行を挙げた。これまでは浦野代表に頼り切りだったが、ネットワークとして自立して発行したい。

以上提案するが、他に何かあるか。

## その他

**浦野**：私が会報の発行等へ随分尽力した旨の発言が相次いでいるが、パソコンを使いカラー情報をHPとして作成、配信することは、少額で済む。今後とも、私がHP担当でも構わない。費用のことより、情報提供をお願いします。

**木村**：浦野代表には、是非HP特命係をお願いしたい。以上3点の目標について意見はあるか。

**参加者**：意義無しの声。

**浦野**：提案であるが、「サケを北海道のシンボルにする」との活動に対し、ネットワークとしてブログを設け、広く道民の声を集めてはどうか。

**木村**：この提案について、本総会で論議したいがどうか。

**参加者**：拍手。

**木村**：承認されたとする。次に、議事3の2009年度予算案の提案をお願いします。

**前鼻**：2008年度が終わったことを想定し、2009年度（案）を作成した。これまでの実績をふまえて、主入と支出を94846円とした。

**木村**：本提案に意義はあるか。

**参加者**：拍手。

**木村**：承認された。予定の15:00を過ぎたが、このまま会を続ける。議事4の役員改選を行う。改選方法にご意見はあるか。

**参加者**：なしとの声。

**木村**：事務局案を提案する。役員は当番制が良いと考えているが、本会が年1回の開催であること、情報交換もまだ不十分な状態であることを考慮し、現役員がサーモン協会のバックアップを得ながら続投したいと考えている。意見を伺いたい。

**参加者**：異議なし。

**木村**：これからも、役員の協力を得ながら基盤整備を図って参る。十勝エコロジーパークガイドの会についてだが、ガイドの会だと一般会員扱いになり会費がかかる。指導的立場にあるので、特別会員になってはどうか。

**倉田**：一般会員として、会費納入の方向で話を進めている。

**木村**：それでは、これからも一般会員として参加をお願いします。以上で閉会。10分の休憩後、2008年度サケ会議を開催。

## 【北海道サーモン協会 2008 年度サケ会議】

### 代表挨拶

木村：今回は、帯広畜産大学の押田先生の参加を頂いて会議を開催することができた。有意義な会議にして頂きたい。講演の前に、会員からの活動報告をお願いします。

### 活動報告

千葉（とちち・帯広サケの会）：今年から名称が変わった。改めて資料はつくらなかったが、広報用の資料を用意した。現在の会員は 40 名程。2008 年 5 月 5 日に売買川へ 1 万尾を越える稚魚を放流した。稚魚は生徒達に育ててもらっているが、上手くいく場合もあれば、いかない場合もある。それも命を学ぶ一環と考えている。実際に放流してみて、サケの稚魚も初めは泳ぎが下手であるということを生徒達と学んだ。また、食育の観点から「頂く」という気持ちを育てる意味で、コツコツと活動している。

新庄（十勝川自然再生協議会）：今回は準備会として参加。この会は十勝川流域の自然再生、河川環境修復を目指し、2 つの分科会を設けている。中上流域はサケの分科会（太田代表が座長）、下流域はシシャモの分科会（豊頃町の方が座長）。昨年秋から活動を始め、今年で 2 年目になる。

倉田（エコロジーパークガイドの会）：当会は任意団体であり、公園を管理するパーク財団とは異なる。H15 年から活動を開始。音更、幕別・・・等、410 hr を活動の拠点としている。月 1 回の自然観察会、5 月のサクラマス溯上観察会、10 月のトトロロード サケ観察会等を行っている。ブログで報告したいので、サケネットワークにリンクされれば良いと思う。

浦野：当ネットワークの HP に関係団体の HP をリンクさせたいと考えている。

倉田：リンクさせるか、パスワードを共有するか、の方法がある。

浦野：HP には会員だけの情報もあるため、使い分けたい。総会の了承を得た後、リンク集をつくりたいが如何か。

木村：総会に逆戻りした形だが、ただ今の提案に意見はあるか。

参加者：異議なく、承認。

谷口（とちち・帯広サケの会、観光ボランティア）：サケ祭りでは親サケの放流を行う予定。準備のため中座するが、サケ祭りにも参加して頂きたい。

工藤（安平町マチおこし研究所）：水産孵化場の協力で、2 万粒のサクラマス卵の埋没、ふ化放流を行った。孵化率は高く、どこでも魚が釣れる状態になった。ヤマベは居るが、頭首口が沢山あるため親が遡上できない。魚が跳ねるための深みを作ったり、魚道を整備する件で土現に働きかけを行っている。光が見えない状態だが、期待している。また、サクラマスの親を上流へ輸送できないか、関係機関と協議中である。ベニザケやサクラマスの溯上調査も行っている。子供に目が動く卵を見せると感動する。子供達にふる里の思い出をつくってあげたい。

山田（大雪と石狩の自然を守る会）：サケ稚魚を、飼育放流と自然放流の双方で行っている。

飼育放流では、昨年の12月に5,000粒の卵の提供を受け、市民に里親を募集した。放流までの飼育状況を報告してもらうとともに、4月にアイヌの活動と一体となり放流した。自然放流では、20,000粒の発眼卵を湧水域に埋没した。発育状況をモニタリングする際に1割程度の減耗を生じたが、残りを放流した。その他、市民を対象にした春と秋のゼミナール、川の観察会、エコテックの方による「魚が住む河川」についての話題提供、等を開催。これまで、多くの放流と活動を行っているが、旭川で親の溯上は確認できていない。実際に遡上したサケを観られないと活動が低下するので、新たな元気の出る話を期待する。

**石黒（さけますセンター）：**資料に基づく説明。ふ化放流の基本的考え方であるが、北日本の重要な資源であるサケ資源は、資料のとおりふ化放流を行わないと守れない。全てを天然産卵に任せてはどうかとの意見もあるが、グラフで見て分かれるとおり、放流が行われていない明治時代の資源量は少ない。また、現在の河川環境は当時に比べて悪化している。現在の資源量を守るためにもふ化放流事業は大事。しかし、国家戦略として掲げられている「多様性の維持」を図るためにも、自然産卵を回復させることは必要。現在、石狩川水系におけるサケの放流は千歳川で行っているが、グラフのとおり1940年代には石狩川本流でも捕獲の実績がある。川に堰堤ができて以来、旭川までサケが上ることはなくなった。近年、豊平川や安平川等、多くの河川で魚道整備が進んでいる。さけますセンターとしても別添資料のとおり、取り組む予定。稚魚放流は来年の春を予定している。放流数の不足分は、過去の豊平川同様、市民団体の放流へと発展させることができるかもしれない。

**木村：**ふ化放流と天然産卵を結び付けることは大事。天然産卵だけで資源を維持することは無理だが、そのなかで多様性を持ったサケをどのように維持するかが課題。今後の活動結果を楽しみにしたい。

**石垣（さけますセンター）：**今回は傍聴で参加した。我々にとって、ふ化放流は第一の仕事。資源を増やすという目的は果たせたと考える。今後は、自然産卵を含めた新たな仕事の展開が求められている。ふ化放流と自然産卵の両立が大事。

**木村：**明日、サケの再放流を見学する予定だが、これからも十勝のサケを守ってもらいたい。

**高橋（サーモン協会）：**当協会では、河川環境を守る意義を市民の皆さんに理解してもらうための活動を行っている。以下、資料に基づいた説明。1. 札幌クラークライオンズクラブ等と共催で、小学生への啓蒙を目的とした稚魚放流を行った。2. 今回配布した会報6号を発行した。手に取って読みたくなるよう、紙面を工夫した。3. 夏休み親子サケ教室を開催。多くの人に集まってもらえるよう、興味を引く内容を工夫した。4. 当協会のメイン行事である公開市民講座を開催した。人集めが大変であるが、多くの協賛を得、新聞広告を出すことで、ほぼ定員を満たすことができた。5~7. 会員交流事業として、サーモンロードふれあいツアー、豊平川河畔清掃と産卵床観察会、会員交流懇親会を開催。忘年会を兼ねた懇親会におけるオークションは、貴重な収入源。さらに、8. サケ友の会以来継続しているサケ学習国際交流として、春休みに小学生12名をカナダへ派遣した。

**木村：**その他の活動報告、あるいは今の報告への質問等はあるか。

**千葉（前出）：**自然を守る会（旭川）では、里親へ何粒の卵を分けるのか。里親の世帯数、生残率等を知りたい。

山田（前出）：約 100～300 粒を，60 cm 水槽用のマニュアルとともに，個人，幼稚園，学校を含めた約 30 世帯に配布．ふ化率は 9 割を超えているはず．春の水温管理が大切．7～10 日に 1 度，水交換をすれば良い．

千葉（前出）：サケは，食べることで育てることの両面を学ぶことができる素材である．放流はどのように行っているのか．

山田（前出）：飼育放流の場合，日程を決めて，里親から集める．大きさはまちまち．今年は 4 月 21 日に放流した．自然放流の場合，卵黄を吸収した段階で放流．

千葉（前出）：売買川の清掃に感謝．

木村：水槽飼育したサケはペットではないので，可愛いだけで終わらせてほしくない．育てたサケがいずれは喰われる立場になることも教えてほしい．サケの資源が増えた理由はいろいろあるが，自然のサケから学んだことをふ化放流事業に応用したことが大きな理由．その一つに，自然のサケは石の間でじっとして成長する点がある．水槽飼育のサケは明るいなかで育っているので，この点が自然とは異なることも教えてほしい．原点として，サケは野生動物であり，生き残ったものが資源になるということを教える必要がある．